

上級幹部政策分析研修の手引き

西村三世・藤川博巳

実務に従事している幹部に、政策科学を修得させるためには、実修をとりいれた、よく計画された研修が望ましい。これはドロア博士が各国の行政・外交・防衛あるいは民間企業の幹部に対して実施した経験から生まれた、政策科学研修のデザインを示したものである。単なるプロポーザルで

にしむら みつよ OR実務協会
ふじかわ ひろみ 三井情報開発㈱ 総合研究所

なく彼のフィロソフィーが折りこまれており、他の2篇の報告とも関連があり、実務担当の上級幹部に、ORや政策科学の研修を計画するのに参考となるので紹介する。

1. 研修会の目的

複雑かつ不確実な条件下で行なう意思決定は、いわば不安定状況のものの一種の賭である。政策

特集に当って

私たちの政策問題研究部会は、学界よりも企業の人が多い。そこで逆に政策科学研究においてはアマ（非学界人）であることを意識して、一流のプロ（今村，福島両先生）のレッスンを受けつつ、プロの舞台（学会等）にチャレンジしている。

今回、部会のアウトプットを3部に分けた。1つは、福島先生のお世話による、政策科学の世界的権威のY.ドロア博士の論文および講演の紹介である。これは昨年12月、他の部会の協力を得た三菱総研での講演会とその後での懇談の成果である。この講演で同博士は新しい政策科学展開の意欲を示したので、報告作成者は十数回にわたるテープのヒヤリング打合せをもとに原文複製→論文作成→逐語訳→要訳のステップをふんだことを特記しておく（原文が必要な方は学会までご連絡ください）。この報告は、80年代の政策科学の展開に意義ある成果をもたらすことを期待している。

2つめは、政策科学の展開の場についての総合展望

と計測の基準となる価値論、および（時間的空間的）舞台の予測である。これらの問題は、政策科学研究の主要部を占め、枚数の少ない論文で、簡単に扱いきれないが、各シェフがとりあげた素材（資料・文献）はそれなりに吟味している。味つけは批判されようが、とりくみの心意気を買っていただきたい。特にPolicy SciencesおよびPolicy Analysisの継年的総合分析は部会の読合せで多くの新しい知見を与え、有益な論議がもたれた。

3つめは方法である。実践には演出が必要であり、政策科学の最大の舞台（Administration≡政治；経営）は1つのshowである。このような要素を注目し、ワークショップにとり入れたSINPLは春の学会で熱心な質問を受けた。この解答を創案者によって報告し、さらに今村先生によって方法論を総合的に補足していただくことは、学会参加者へのフォローアップができ関係者として喜んでいる。

最後に、私たちに出演の舞台を提供して下さった編集の先生方と会員の皆様に感謝する。